

I 実践

1 実践テーマ

差別や偏見をもたない親密な人間関係を築きつつ、自己肯定感をほぐくむ人権教育のあり方

2 活動目標

- (1) 人間関係の親密性を基盤とした学校教育全般を通して、相手の立場を理解するとともに、一人一人が自己肯定感をもてるようにする。
- (2) 教育活動全体を通して、人権に関する課題を理解し、正しい認識をもって人権尊重の精神が養えるようにする。

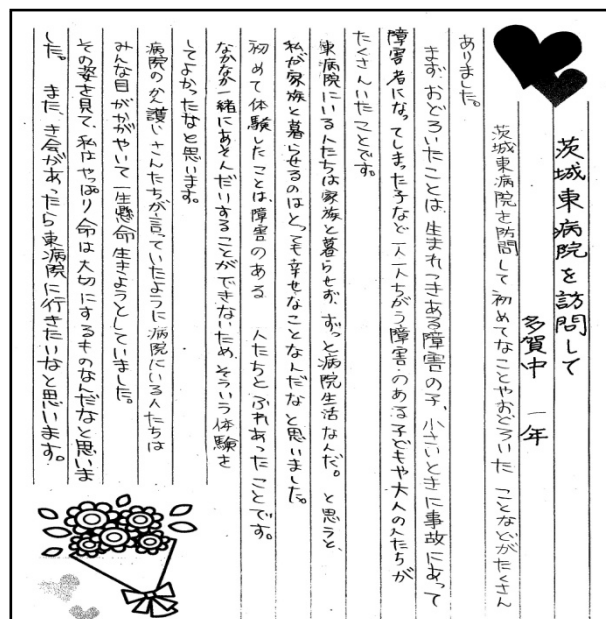
3 実践内容

(1) 「ふれあいタイム」の実施

「ふれあいタイム」とは、「生徒同士、生徒と教師と一緒にふれ合う時間を過ごそう」というねらいのもと、年に4回、学級または学年単位で15分程度の時間で実施しているものである。内容や種目を考える生徒、道具の準備等を進んで行う生徒、意外な才能を発揮して仲間から認められる生徒など、生徒の新たな一面がかいま見える時間でもある。今年度も教師と生徒、そして生徒間の人間関係づくりに役立ち、大いに盛り上がりを見せている。身近な仲間を知ること、お互いを認め合えることができるようになり、その小さなステップの積み重ねが親密な人間関係づくりにつながっている。

(2) 茨城東病院への訪問から学ぶ

毎年、JRC委員会の生徒を中心に茨城東病院を訪問している。30年以上続く本校の伝統的な活動であり、今年度は、院内の清掃を手伝ったり、患者との交流を図ったりするなどのボランティア活動を行った。患者との交流では、初めは驚きと戸惑いが見られたが、時が経つにつれ積極的にふれ合うことができるようになった。参加した生徒からは、「患者さんの笑顔がとてもきらきらしていた。」「いろいろな人とふれ合うことで、生きる喜びを実感した。」「また参加したい。」などの感想が聞かれ、様々な立場の異なる他者への理解を深めることができた。



(3) 「日立市ふれあい運動会」への参加から学ぶ

毎年、JRC委員会の生徒を中心に、「日立市ふれあい運動会」へボランティアとして参加している。今年度は、ボランティア委員会の生徒も加わり、延べ48名の生徒が参加した。参加者の誘導や運営の補助を行ったり、一部の種目に参加したりして様々な人たちとふれ合うことができた。活動を通して、相手の立場を理解し、その人の立場に立って考え、行動する姿が多く見られた。

(4) 日立養護学校・萬春園との交流から学ぶ

本校では、隣接している日立養護学校、萬春園（特別養護老人ホーム）へ訪問し、交流を図っている。養護学校とは、グラウンドを共有しており、児童・生徒を目にする機会は少なくないが、日常的に交流する機会は少ない。そこで、1年生の福祉学習の一環として、学期に1度、相互の学校を行き来して交流会を行っている。毎回、どう工夫すれば一緒に楽しめるか、どのようなことに注意すれば安全に活動できるかなどを生徒同士が話し合い、活動内容を企画している。また、2年生は、職場体験学習で養護学校と萬春園を訪れた。2日間という短い時間であったが、養護学校では、授業に参加し学習のサポートをしたり、萬春園では、ゲームや折り紙、食事の手伝いなどを行ったりして、同じ時間を共有し、高齢者や障害のある人への理解を深めることができた。

(5) 人権感覚と指導力の向上を図るための教職員研修

教職員自らの人権に関する理解と認識をさらに深め、指導力の向上を図るための参加体験型の校内研修を2回行った。研修テーマを「言語環境から考える人権教育」とし、生徒や教師、保護者との日常会話の中で起こりがちな事象を取り上げ、どこが問題なのか、配慮したいことや適切な言葉かけはどのようなものかを考えた。研修を通して、自らの人権感覚を高めるとともに指導者としての必要な知識を身に付けることができた。

4 成果

- (1) 生徒は、協力的な学習、参加的な学習、体験的な学習を通して、人権に関する知的理解を深めることができた。
- (2) 近隣の養護学校や地域の福祉施設、福祉活動へ積極的に訪問、参加することで、様々な立場の人たちと共に生きていこうとする幅広い視野の形成に役立つことができた。
- (3) 学年や学級での活動を増やしたことで、友だちの新たな一面を知ることができ、生徒同士、教師と生徒間での話題づくりにも一役買うことができた。また、相手の存在を意識し、良さを認め合う機会が増えたことで相互理解を深めることができた。

II 今後の課題

生徒に人権感覚を身に付けさせるために以下の点について今後も継続的に取り組んでいく。

- (1) 生徒が活躍できる場を設定し、自主性を尊重しながら自ら考え、主体的に判断し、行動する力をはぐくむ。
- (2) 生徒の豊かな人間性をはぐくむため、体験的な活動を多く取り入れる。
- (3) 「人権コーナー」の設置や「人権だより」の発行などを実践して、人権に対する関心を広げ、学校・家庭・地域が連携して人権教育に関わる仕組みを作る。
- (4) 教職員一人一人が、人権尊重の理念や人権の課題を十分に理解し、人権教育を推進していくことのできるような研修の充実を図る。